



伝達網の機能を確認

建コン協九州、中国地方
大規模地震想定し演習

建設コンサルタツ協会（建コン協）九州支部（田中清支部長）は2日、福岡市博多区の同支部事務局で2024年度の災害時対応演習を行った。写真。中国地方で大規模地震が発生したと想定し、現地対策本部や協会対策本部、各支部をウェブ会議形式でつなぎ、

被災状況の確認や支援要請の連絡などを行い、連絡・伝達網が正常に機能するかを確認した。

演習は午前11時に中国地方の五日市断層を震源とするマグニチュード7・0の地震により、建物の倒壊や道路のり面崩壊などの被害が発生したと想定。災害当日、1日後、10日後を想定し、被災状況の共有や支援に回る各支部の役割分担などを確認。最後は発生365日後に支援が不要となり、支援体制を解除するまでの動きを演習した。

演習後の反省会では、本部からのメールが受信できなかったといった指摘があった。田中支部長は各支部が本部に支援可能な内容を報告する際、その後の企業選定までを考え、企業ごとの対応可能な人数や日数などより詳細な内容を記載するフォーマットの必要性を訴えた。